

第 4 章

フィリピンの経済地理統計データ

熊谷 聡

キーワード：

フィリピン 経済 地理 データ

1. 地理的区分

フィリピンの行政区画は、第 1 レベルで 17 の地方 (Region) に分割される。ただし、National Capital Region (NCR) および Autonomous Region in Muslim Mindanao (ARMM) を除いて、「地方」は行政組織としては存在しない。行政組織としては第 2 レベルの州 (Province) が 80 州あり (表 1)、加えて、高度都市化市 (highly urbanized city) とよばれる都市が州から独立した自治体として機能している。

表 1 フィリピンの行政区画一覧 (2010 年)

地方 (Region)	人口(万人) (2007 年)	州 (Province)
National Capital Region (NCR)	1,155.3	1
Cordillera Administrative Region (CAR)	152.1	6
Autonomous Region in Muslim Mindanao (ARMM)	412.1	5
Region I (Ilocos Region)	454.6	4
Region II (Cagayan Valley)	305.1	5
Region III (Central Luzon)	972.1	7
Region IV-A (CALABARZON)	1,174.3	5
Region IV-B (MIMAROPA)	256.0	5
Region V (Bicol Region)	511.0	6
Region VI (Western Visayas)	684.4	6
Region VII (Central Visayas)	639.9	4
Region VIII (Eastern Visayas)	391.3	6

Region IX (Zamboanga Peninsula)	323.0	3
Region X (Northern Mindanao)	395.2	5
Region XI (Davao Region)	415.7	4
Region XII (SOCCSKSARGEN)	482.9	4
Region XIII (Caraga)	229.3	5
合計	8,854.3	80

(出所) National Statistical Coordination Board ウェブサイト

2000 年以降、地方レベルでの行政区分の変更は、2002 年に Region IV (Southern Tagalog) が Region IV-A と Region IV-B に分割された 1 点である。本研究会で作成するデータセットでは、17 の地方を単位としている。これは、他の国と比較してやや大きく、第 2 レベルの下位の州を用いるべきかもしれない。しかし、後述するように、フィリピンの経済データについては、州レベルのものが少なく、作成は難しいため、地方を単位とすることは現時点ではやむを得ないだろう。

2. 産業分類

フィリピンの産業分類は、Philippine Standard Industrial Classification (PSIC) として定められている。PSIC の直近の改定は 2009 年である (PSIC 2009)。PSIC 2009 は 5 桁レベルまで定められており、ISIC rev4 に基づいて作成されているが、何桁まで互換性があるかは明示されていない。また、PSIC 2009 に改定される以前は、PSIC 1994 が長く用いられていた。NSCB のホームページには、PSIC 2009 と PSIC 1994、ISIC rev4、ACIC の対応表がある。<http://www.nscb.gov.ph/activestats/psic/default.asp>

3. 人口センサス

フィリピンの人口センサスは、直近では 2010 年に実施されたが、データは 2012 年 1 月現在、公開されていない。その前は 2007 年に実施された。基本的に、5 年ごとに実施されているが、2005 年分の実施は 2007 年にずれたようである。2007 年センサスの結果については、Census のウェブサイトより閲覧出来る。州の下位にあたる市・町のレベルで人口を知ることが出来る。

4. 地域別・産業別 GDP 入手可能性

4.1 国レベル

フィリピンの GDP は、国レベルでは、以下のような産業部門別で発表されている。

表2 フィリピンの国レベルでの産業別 GDP の分類

1. AGRI.FISHERY,FORESTRY
a. Agriculture and fishing
b. Forestry
2. INDUSTRY SECTOR
a. Mining & Quarrying
b. Manufacturing
c. Construction
d. Electricity, Gas and Water Supply
3. SERVICE SECTOR
a. Transport., Stor., and Comm.
b. Trade and Repair of Motor Vehicles, Motorcycles, Personal and Household Goods
c. Financial Intermediation
d. R. Estate, Renting & Bus. Actvt
e. Public Administration & Defense: Compulsory Social Security
f. Other Services

(出所) NSCB ウェブサイト

4.2. 地方レベル

フィリピンの地方別 GDP は、直近で、2009 年時点まで NSCB より発表されている。これは、NSCB ウェブサイトより入手できる。産業別での発表はされていないが、”Regional Highlights”のページより農林漁業、製造業、サービス業の3分類の構成比を知ることが出来るため、これを用いれば容易に産業別 GDP 額への換算ができる。

5. 経済地理データ作成の手順と課題

フィリピンの地域別 GDP を作成する際には、4.2 で示した地方レベルでの GDP をベースにするのが適当だろう。NSCB ウェブサイトから入手できるデータにより、地方レベルの GDP を農林漁業/製造業/サービス業の三部門にまでは分割できる。これからさらに産業を分割していくためには、Annual Survey of Philippines Business and Industry(ASPBI)を用いる必要がある。ASPBI では、各地域別に、PSIC3 桁レベルで、売上高、付加価値、雇用者数などを知ることが出来る。ASPBI は製造業の他に、農林水産業やサービス業についても冊子が発行されており、部門分割に利用できる。

6. 関連統計ソース

Annual Survey of Philippines Business and Industry, National Statistics Office, Philippines, 各年版

Census ウェブサイト (<http://www.census.gov.ph/data/census2007/index.html>, 2012 年 2 月 23 日アクセス)

National Statistical Coordination Board ウェブサイト

(<http://www.nscb.gov.ph/activestats/psgc/listreg.asp>, 2012 年 2 月 23 日アクセス)

National Statistics Office ウェブサイト(<http://www.census.gov.ph/>, 2012 年 2 月 23 日アクセス)

Philippine National Statistical Coordination Board(NSCB)ウェブサイト
(<http://www.nscb.gov.ph/>)